

昔から人とモノが行き交う道。そこでは、数多の歴史や文化が生まれ、今に伝える文化財が現存しています。本シリーズでは街道を中心に、守山に残る文化財の魅力を紹介しします(隔月掲載)。

図文化財保護課 ☎(582)1156 📠(582)9441

中山道・楓三道(焰魔堂町・勝部)

西蓮寺のご本尊が市文化財に

全国を巡り歩いて、踊念仏で念仏の教えを広めた時宗の開祖・一遍は、「江州守山のほとり琰魔堂」といふ所にて踊念仏の教化を行つたとされています(『一遍上人絵伝』)。この「琰魔堂」とは、現在の焰魔堂町に比定され、一説では中山道沿いに位置する十王寺のお堂(爛魔堂)であったのではないかとする説もあります。このためか、近隣の勝部町には市内では数少ない時宗寺院が集中しています。

勝部神社の門前、現在の楓三道沿いに西蓮寺(勝部二丁目)という時宗寺院があります。寺伝によれば、文和3年(1354)、遊行七代託何上人によつて開かれたとあります。

このお寺には鎌倉時代に活躍した仏師・快慶の作と伝わる、本尊の阿弥陀如来坐像が安置されています。像の底には「阿弥陀如来 万治3年(1660)子五月吉日/安阿弥御作也/後鳥羽時分洛陽大宮方上之大佛師/吉野右京種次」との書き込みがあり、京仏師の吉野右京種次によつて、「安阿弥(快慶の別称)」作として評価されていたことがわかります。

快慶の作と思わせる鋭い目つき、鎌倉時代前期の慶派に通ずる姿などが指摘されるものの、脚部などからおおむね13世紀〜14世紀の作と推定されます。快慶作との証明には至りませんが、造形的に優れた鎌倉彫刻であるとともに、本市の浄土信仰の側面を物語る重要な資料として、令和元年11月に市の文化財に指定されました。



阿弥陀如来坐像(本尊)



西蓮寺の境内
※拝観を希望する場合は文化財保護課までお問い合わせください。

Let's Walking history

周辺のおすすめスポット



②勝部を含む地域の総社。本殿は国の重要文化財。毎年1月に執り行われる「火まつり」は守山の風物詩。

③火まつりの準備や祭事を行う「松明組」の拠点。また、地域の拠点施設としてカフェや食事処などもある。



②勝部神社



①十王寺



③勝部自治会火まつり交流館

①中山道沿いにある古刹。冥界を歩き来し、閻魔大王を補佐したとされる小野篁開基と伝わるお寺。